

レジメン名

DcyBorD(経口)

出典

ベルケイド®適正使用ガイドハンドブック
ダラキューロ®配合皮下注適正使用ガイド

実施部署区分

☒入院 ☒外来 ☐処置

対象疾患

全身性ALアミロイドーシス

☐進行・再発
☐補助療法(術前・術後)
☒初発
☐

投与減量の基準(ベルケイド/シクロホスファミド)

シクロホスファミド	ANG 1500/mmℓ未満	PLT 10.0万/mmℓ未満
	上記検査値の場合50%減量	
ベルケイド	ANG 500/mmℓ未満	PLT 2.5万/mmℓ未満
	Grade3以上の非血液毒性(抹消性ニューロパチーは除く)はGrade2以下に回復後1段階減量して再開 疼痛を伴うGrade1又はGrade2の末梢性ニューロパチー減量目安1.3mg/㎡→1.0mg/㎡→0.7mg/㎡→投与中止 疼痛を伴うGrade2又はGrade3の末梢性ニューロパチーは症状が回復した場合0.7mg/㎡に減量した上で週1回投与に変更	

投与中止の基準(ベルケイド/ダラキューロ/シクロホスファミド)

シクロホスファミド	ANG 1000/mmℓ未満	PLT 5.0万/mmℓ未満
	ANG 500/mmℓ未満	PLT 2.5万/mmℓ未満
ベルケイド ダラキューロ	ベルケイド: Grade3以上の非血液毒性(末梢性ニューロパチーは除く)疼痛を伴うGrade2又はGrade3末梢性ニューロパチー ダラキューロ: Infusion reaction Grade1,2: 回復後、再投与可 Grade3: 回復後、再投与可(3回出現で投与中止) Grade4: 中止 出血を伴う血小板減少症Grade3以上(5万/mmℓ未満) 発熱性好中球減少症全Grade 感染症を伴う好中球減少症全Grade Grade4の貧血 Grade3又は4のその他の毒性	

1クール期間 28日

総クール数 PD

(次のクールまでの標準期間)

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度 (時間)	投与日(d1、d8等)	1日投与順 (経時的にプレ Medikation・ポスト Medikation、 溶解液まで含む)
ダラツムマブ・ボルヒアルロニダーゼ アルファ(ダラキューロ)	15mL	皮下※1	3-5min	day1.8.15.22(1-2サイクル)	1-2サイクル day1.8.15.22 <内服> ・シクロホスファミド300mg/㎡※4 (ダラキューロ投与1時間前) ・デカドロン錠(4)5T ・アセトアミノフェン錠(200)4T ・ボララミン錠(2)1T ①ダラキューロ配合皮下注 15ml/V(皮下注射 3-5分)※1 ②ベルケイド1.3mg/㎡+生食適量(皮下注射) <内服> day2.9.16.23 ・デカドロン錠(4)5T 3-6サイクル day1.15 <内服> ・シクロホスファミド300mg/㎡※4 (ダラキューロ投与1時間前) ・デカドロン錠(4)5T ・アセトアミノフェン錠(200)4T ・ボララミン錠(2)1T ①ダラキューロ配合皮下注 15ml/V(皮下注射 3-5分)※1 ②ベルケイド1.3mg/㎡+生食適量(皮下注射) 3-6サイクル day8.22 ①ベルケイド1.3mg/㎡+生食適量(皮下注射) <内服> day2.16 ・デカドロン錠(4)5T <内服> day8.22 ・デカドロン錠(4)10T ・シクロホスファミド300mg/㎡※4 7サイクル以降 day1 <内服>ダラキューロ投与1時間前 ・デカドロン錠(4)5T ・アセトアミノフェン錠(200)4T ・ボララミン錠(2)1T ①ダラキューロ配合皮下注 15ml/V(皮下注射 3-5分)※1
ダラツムマブ・ボルヒアルロニダーゼ アルファ(ダラキューロ)	15mL	皮下※1	3-5min	day1.15(3-6サイクル)	
ダラツムマブ・ボルヒアルロニダーゼ アルファ(ダラキューロ)	15mL	皮下※1	3-5min	day1(7サイクル以降)	
ボルテゾミブ(ベルケイド)	1.3mg/㎡	皮下		day1.8.15.22(1-6サイクル)	
シクロホスファミド(エンドキサン)	300mg/㎡※4	経口		day1.8.15.22(1-6サイクル)	
デキサメタゾン(デカドロン)※2	20mg/body	経口		day1.2.8.9.15.16.22.23(1-2サイクル)	
デキサメタゾン(デカドロン)※2	20mg/body	経口		day1.2.15.16(3-6サイクル)	
デキサメタゾン(デカドロン)※2	40mg/body	経口		day8.22(3-6サイクル)※3	
デキサメタゾン(デカドロン)※2	20mg/body	経口		day1(7サイクル以降)	
※1 臍から左又は右に約7.5cmの腹部皮下に投与。 同一部位の反復投与は避ける。痛みがある場合、減速または中止し、残液を左右反対側の腹部に投与可。					
※2 70歳を超える又は過少体重(BMI: 18.5kg/㎡未満)、血液量増加症、コントロール不良の糖尿病、又はステロイド療法に対する忍容性がない若しくは有害事象を発現した患者にはデキサメタゾンを20mg/週で投与することも可能。その場合、ダラキューロ投与前のみに20mgを投与。					
※3 3-6サイクルd8.22は2日に分けて20mgずつd8.9、d22.23でも可					
※4 最大絶対週間投与量は体表面積に関わらず500mg					